

平成28年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書(概要版)

実施機関名(国立大学法人 愛知教育大学)

1. テーマ

発達特性を持つ児童生徒も含めたすべての児童生徒にとって、社会生活面、対人関係面における技能の向上を目指した視覚教材DVD製作を行う(主として、現場教員のための教材DVD)。

2. 問題意識・提案背景

愛知県中央部の心理相談活動を請け負っている愛知教育大学教育臨床総合センター心理教育相談室では、近年、不登校を主訴とする相談が、全相談の半数近くを占めている。そして、その不登校の背景に発達障害の存在が疑われる事例が、ここ数年、特に多く見られる。彼らの面接では、彼らが相談場面に至るまでに、いかに生きづらさを体験し続けてきたか、他者が彼らの傷つきを理解してこなかったかが明らかになってきた。

また、不登校の背景に発達障害の存在が疑われる子供の数を考えると、不登校にはまだ至ってはいないものの、発達障害や発達障害の傾向を有していることにより、社会の中での生きづらさ、傷つきの体験を積み重ねている生徒の数も多いことがうかがわれる。教員がその存在に気づき、適切に彼らの思いを汲みとったり、認知の偏りを補ったりするような学習面での支援を行うことができれば、彼らが将来的に不登校を呈する可能性を低減できる可能性が考えられる。そのため、彼らと日常的に関わる教員の発達障害の知識や具体的支援の技量を増すことは、今日の現場教育において喫緊の課題である。そのため本事業を企画し取り組んだ。

3. 目的・目標

目的・目標: 授業(一斉指導)における指導方法を考案し、「主として教員向けの視覚教材(DVD)」を作成する。

* 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

- ・発達特性を持つ子供たちの授業内における特性の正確な把握を行う
- ・当初は「観察記録」を用いる予定だったが、多忙な現場教員の過重な負担を考え、教務主任や担任等へのインタビューに切り替えた。

* 特性把握をもとに創作シナリオを作成する

- ・上記によって把握された子供たちの特性をもとに、愛知教育大学教員、大学院生らにより、創作シナリオ原案を作成。早期支援研究事業運営協議会等において検討を重ねる。

* 完成したシナリオの「児童・教員のための有用な視覚教材」化

・再委託先によるシナリオのドラマ化を図る

＊教材 DVD の完成

教材 DVD「先生のための発達障害」を豊明市内の教育機関を中心に広く頒布し、各学校種において道徳やホームルームや職員会議等の時間を使い、本 DVD の活用を図り、現場教員の具体的支援の技能を高める。

4. 主な成果

本事業の成果としては、第一に、発達特性を持つ子供たちに対する具体的支援のあり方を視覚教材として作成したことである。これまで紙媒体による知識の普及や支援の在り方等はさまざまに取り組まれているところであるが、プロの役者や子役を使ったドラマ仕立ての支援の実際は、ほかにあまり類を見ない。これによって、DVD を広く教育機関に頒布することにより、発達特性を持つ子供たちへの支援の在り方が容易かつ具体的に現場教員に広めることができる。なお、その成果については、DVD 製作が年度末になったため、今後の普及の結果が待たれる。

次に、本教材 DVD を制作する上で、年 3 回の早期支援研究事業運営委員会ばかりでなく、それ以外にも時間外での面談やメールでの検討を校長、教頭、特別支援教育コーディネーターらと緊密に重ねた。それによって、現場の意見を充分に取り入れた形での制作が可能となった。

5. 指定校における取組概要

1、授業（一斉指導）における指導方法を考案し、「主として教員向けの視覚教材（DVD）」を作成

1）学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

H27 年度文部科学省理解推進拠点事業の一環として、豊明中学校において使用した「観察記録」を各学年の担任に配付し、どのような発達特性を持つ子供たちが在籍し、授業においてどのような困難が生じるのか、具体的に記載してもらう。これら観察記録をもとに、学年主任、保健主事、特別支援教育コーディネーターらと、愛知教育大学大学院学校教育臨床専攻教授や大学院生・修了生を交え、各生徒に関する発達特性の有無やその傾向に関して検討する。それらを校内教育支援委員会（早期支援研究事業運営協議会）に報告し、さらに詳しく発達特性の把握、支援の方向性など検討する。こうした基礎データをもとに、以下②に示す支援内容を具体化する。

＜計画の変更＞

現実には、「観察記録」を担任教師に配付・記入する手続きは、多忙な教員の負担が過重にかけると判断され、各教員のインタビュー調査に変更された。H28 年 6 月から 7 月にかけて 2 回に亘ってインタビューが行われ、十分な基礎資料が提供された。

2）学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の具体化

・授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容

上記基礎資料をもとに、発達障害支援アドバイザー、愛知教育大学学校教育臨床専攻教授、愛知教育大学学校教育臨床専攻院生・修了生などが自閉スペクトラム症の3類型に従って原案を作成する。すなわち、「積極奇異型」「孤立型」「受身型」の3類型である。その原案を「校内教育支援委員会（早期支援研究事業運営協議会）」に諮り、指導方法案を策定する。

これら指導方法案が作成されたのち、その指導方法を「主として教員のための有用な視覚教材」化することを図る。具体的には、上記の指導方法案を再委託先のインクルーシブ・シアターに依頼し、シナリオ化する。そのシナリオに関しては、指定校教員、発達障害支援アドバイザーとの協議により現場の意見を取り入れ、さらには校内教育支援委員会（早期支援研究事業運営協議会）等において検討し、改良を加え完成させる。

完成したシナリオをDVD化し、指定校の教員や豊明市教育委員会などに頒布し、「発達特性を持つ子供たちへの指導の工夫」として、とりわけ「主として教員のための有用な視覚教材」を作成することを目的とする。さらには、道徳の授業等において、担任教師、児童が視聴し、そのあと担任指導によるグループディスカッションを行ったり、アンケート調査などを行ったりする。たとえば、グループディスカッションでは、DVDを見て感じたことや考えたことを発表し合い、発達障害の特性がある子供の行動、会話に即して彼らの気持ちを想像させ、どんな手助けができるのかを考えさせる。このことは、文部科学省の推進する道徳教育の促進にかなっているばかりでなく、発達障害特性への理解や関わりを児童・教師共に実践的に学ぶ格好の機会となる。

<計画の変更>

授業における一斉指導の劇団によるロールプレイに関しては、予算面において大幅な経費が掛かることにより現実には実現できなかった。その代わり、原案からシナリオ化に当たっては、指定校校長、特別支援教育コーディネーター、愛知教育大学教員・院生などと打ち合わせやメールを通してなど入念なやり取りを行い、ロールプレイの代わりに足る十分な検討が重ねられた。

2) 他の取組の概要

*校内教育支援委員会（早期支援研究事業運営協議会）

- ・年間3回程度実施されている校内教育支援委員会に、大学関係者が参加し、支援のあり方について専門的立場から意見交換を行う。それを基に具体的な支援方法の原案を作成。大学関係者と学校側で内容を協議する。

例)「前向きに学習に取り組めない児童への支援」「椅子に座れない児童への支援」「指示がきけない児童への支援」等

6. 今後の課題と対応

指定校における取組の概要は、おおよそ予定されていたものがすべて実行された。ただし、シナリオ作成作業の段階における劇団員によるロールプレイに関しては、いかんせん予算が足らず、実現できなかったのは残念至極である。しかし、その分大学教員や指定校校長、特別支援教育コーディネーターらと入念な検討を重ね、結果的には充分質の高いシナリオが作成され、DVD化にまで漕ぎつけることができた。

教材DVD「先生のための発達障害——再現ドラマ風」は、今後豊明市教育委員会、豊明小学校のみならず、豊明市内の各小中高等学校、さらには県内教育委員会、教育機関、教育関連機関、医療施設などにも無料頒布される予定である。

とりわけ本教材DVDが各学校の指導にどのように取り入れられ、発達障害の早期支援にどのように活かされるのかは、今後の取組を待つほかないが、各学校種において道徳やホームルームや職員会議等の時間を使い、本DVDの活用が図られる予定である。

今後の課題としては、本DVDに関する現場教員の評価がどのようなものか、まずは問われるところである。すなわち、発達特性を持つ子供たちの指導にどのように生かされるのか、生かされないのか、その具体的な評価をアンケート等により、集計される必要がある。その結果を見て、本DVDのさらなる活用の可能性を探り、可能ならば改良版のDVD化が図られてもよい。

まずは、現場からの意見の反映を聴取することが一番の課題となろう。

7. 指定校について

指定校名：豊明市立豊明小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	58	2	44	2	46	2	49	2	60	2	65	2
特別支援学級	0	全校で 2	1	全校で 2	1	全校で 2	0	全校で 2	4	全校で 2	1	全校で 2
通級による指導 (対象者数)	本校は 該当なし											
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別 支援 教育 支援 員	スクールカウンセ ラー	その他	計	
教職員数	1	1	16	1	4	1	1	3	巡回1	4	33	

8. 問い合わせ先

組織名：愛知教育大学

- (1) 担当部署 研究推進部高度教員養成支援課
- (2) 所在地 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
- (3) 電話番号 0566-26-2316
- (4) FAX 番号 0566-26-2711
- (5) メールアドレス y-hasegawa@office.aichi-edu.ac.jp